

『防災における男女共同参画』

平常時だからこそ できる事を

問合せ 毛呂山町男女共同参画推進会議事務局（役場総務課内）

☎049 (295) 2112 ㊟312

「もしもに備えて防災意識を！」よく聞く言葉です。災害が起きてしまった時、迅速に行動できるため、平常時だからこそできることを大切に、有事に備えることが重要です。過去に発生した災害では、避難所などで「男性と女性とで異なる支援のニーズに対応できなかった」という声が相次ぎました。

毛呂山町男女共同参画推進会議では、平常時だからこそできることを大切に、大切な生命財産を守り、被害を少しでも減らすために、『防災における男女共同参画』をテーマに取り組んでいます。

平成29年8月21日に、あさのさちこ浅野幸子氏を講師にお招きし、『男女共同参画の視点から防災を考える』を演題にして、防災に関する講演会を開催しましたのでご紹介いたします。

平成29年度男女共同参画に関する講演会

男女共同参画の視点から防災を考える

講師 浅野 幸子 氏

減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表

早稲田大学地域社会と危機管理研究所 しやうひん 招聘研究員

『男女共同参画って・・・』

男女共同参画とは、「男だから」、「女だから」という考え方にとらわれず、男女がお互いに認め合い、社会のあらゆる分野における活動に、ともに参加し意見を取り入れ、かつ、ともに責任を担うことをいいます。

男女共同参画に関する講演会 「男女共同参画の視点から防災を考える」 に参加して

大災害が発生し、避難所等で生活を余儀なくされ、共同生活を送らざるを得ない状況になった場合の考えに、認識不足の点がありました。それは、究極の状態に置かれた避難者の心境に寄り添っていないことで、被災地の現状を自身自身の目で見ていないことが一つにあると思われまます。しかし、被災地に赴くのは救助・支援・復旧活動等の人たちで、目の当たりにその現状を把握・認識することはできません。ただ、現地に行つて被災状況や生活基盤を失った人たちの不自由な生活状況を見てきた方の講演には非常に説得力があり、緊迫した状況がひしひしと伝わり、災害が起きた時に自分たちにできることは何だろうと考えるおす良い機会でした。

全国の被災地に足を運んでいる浅野さんの支援のご体験の積み重ねから導き出された知識を、ユーモアを交えてわかりやすくお話ししていただきましたので、以下のとおり概要を紹介いたします。

「日本の避難所運営の考え方は、先進国において20年遅れていると言われています。『我慢、忍耐』を美とする日本人の考え方は、苦しみ、不便さを押し付けることになりました。被災者一人ひとり直面する問題は違ってもかわらず『同じ支援で皆平等』では被害は拡大してしまいます。

そういった中、「男女共同参画の視点で防災を考える」ことは、災害時に普段のライフスタイルを取り戻す近道になります。また、子育て・介護・障がい者のケア等を女性が担っていることが多い現状から、女性の視点を取り入れることで、そういった方々のニーズを汲み取りやすくなります。要望を言い出せない人などの社会的弱者を守ることもつながるのです。

平常時から、女性も男性とともに、地域の役員や組織の責任者に多く就けるようにし、子育て中の人、障がい者、高齢者、外国人など様々な立場の人にも当事者として参加してもらい多様な視点で取り組むことが大切ですよ。」と避難所運営の考え方を紹介していただきました。



男女共同参画に関する講演会アンケート集計結果

(平成 29 年 8 月 21 日実施)

講演会参加者数 78 人中 58 人にお答えいただきました。

一部の回答結果をご紹介します。

①この講演会に参加して、防災に男女共同参画の視点が必要だと思
いましたか？

必要だと思った：55 人 必要だと思わなかった：0 人

無回答：3 人

《 必要だと思った理由 》

- ・女性でなければわからないことがあり、女性の周りには高齢者や子どもがいる。女性と男性（さらには外国人や障がい者）いろいろな立場の人の視点が必要です。
- ・女性の特性を知らない。女性の「なり手」がない現状でこれがかっけとなって役員が増えてくれたらいいと思います。



鏡ノ入区長
串田 健次 さん

災害が起きると第一に支援を求めがちになりますが、まずは自助、次に共助、その後には支援を要請することが混乱を避け救助・支援・復興活動の一助になると思われます。また、不自由な避難生活を送らざるを得ない時こそ、老若男女、年齢により詳細な配慮が必要な人が多数いることを想定し、特に女性を通じて、意見や要望を取り入れ具現化することが必要不可欠ではないかと痛感します。

自治会、自主防災組織などを通じて、より多くの女性の方が参加し、災害弱者・健常者を問わず、不自由な中でも相手のことに配慮しながら共同で最善の生活が送れるような体制作りを確立する必要がある。重要ではないかと痛感しました。それには、積極的に男女共同参画を進めなければならず、それこそが防災を考える第一歩であると感じました。

避難所運営ゲーム『HUG』を体験して

避難所運営ゲームは、大規模地震を想定し、次々と避難所を訪れる避難者のカードをいかに適切に避難所の図面に配置していくかを考えるゲームです。避難者は、健常者だけでなく、障がい者、高齢者、妊産婦や乳幼児連れの家族、負傷者、外国人など様々な設定がされています。矢継ぎ早に読み上げられる避難者カードの配置の間には、物資や備品の配布・配置についての判断も迫られます。

性別だけにとらわれた役割配置などは、避難所運営に支障をきたします。
男女共同参画の視点から、役割配置を考える配慮が必要です。

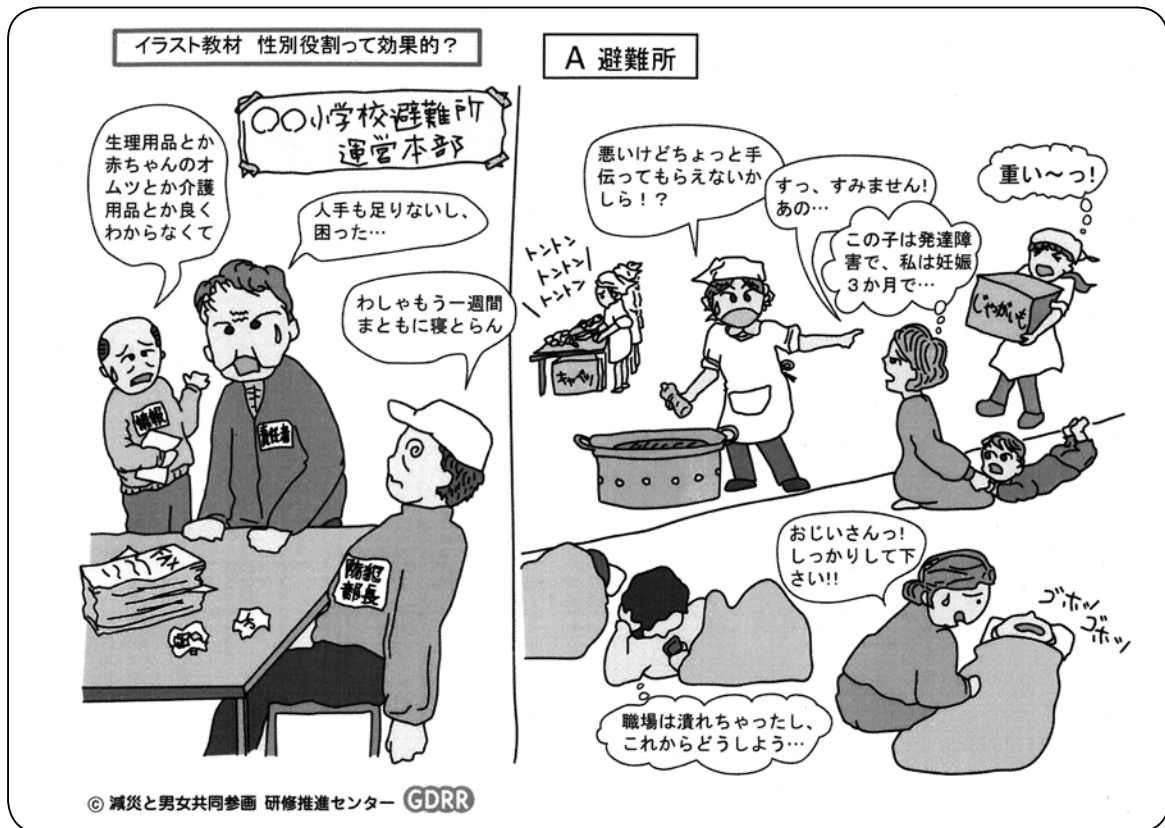


イラスト 「男女共同参画・多様性配慮の視点で学ぶ 防災ワークブック～地域・支援団体で使える! 基本知識の解説とワークショップ教材8」より (減災と男女共同参画 研修推進センター編・発行、2014年)

【『HUG』体験を振り返って】

- ・被災時は、立て続けに多くの避難者が来て、受付が混乱するため、予め指示書を作っておく必要がある。
- ・受付時に、持病・アレルギー有り、妊婦など目印になるようなリボンやゼッケンをつけてもらうと一目でわかる。
- ・比較的元気な避難者にも係を割り振って、避難所運営を手伝ってもらわないと人手が足りない。
- ・受付時、医療関係に携わっている人を確認したらどうだろうか。毛呂山町は埼玉医大があるので、大学生たちがいるかもしれない。
- ・自分たちの地区は自分たちで避難所を運営することがあるので、避難所の設備や広さなど把握しておく必要がある。係などの振り分けもしておいたほうが良いのではないか。
- ・駐車場の振り分けは早い段階で行った方が良い。車中泊する車はなかなか動かないと思われるので、他の車と区別すべき。

※男女共同参画の視点からどのような配慮が必要なのかを考え、それを復興や日常生活の中のあらゆる場面に当てはめることで、より良い復興の実現に繋がることを理解しました。

避難所チェックシート ㊦

- ◆ 避難所の開設・運営においては、男女のニーズの違いや子育て家庭などのニーズに配慮することが必要です。
- ◆ 女性、子ども・若者、高齢者、障害者等の多様な主体の意見を踏まえた避難所運営を行うため、管理責任者や自治的な運営組織の役員には男女両方が参画します。

女性や子育て家庭に配慮した避難所の開設

- 異性の目線が気にならない物干し場、更衣室、休養スペース等
- 授乳室
- 間仕切り用パーティション
- 乳幼児のいる家庭用エリア
- 単身女性や女性のための世帯用エリア
- 安全で行きやすい場所の男女別トイレ（鍵を設置）・入浴設備の設置
（仮設トイレは、女性用を多めにすることが望ましい）
- ユニバーサルデザインのトイレ
- 女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備

男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営管理

- 管理責任者への男女両方の配置
- 自治的な運営組織の役員への女性の参画の確保（女性の割合は少なくとも3割以上を目標にする）
- 女性や子育て家庭の意見及びニーズの把握
（民間支援団体等の協力によるニーズ調査、意見箱、女性リーダーによる意見の集約等）
- 女性用品（生理用品、下着等）の女性の担当者による配布
- 避難者による食事作り・片付け、清掃等の役割分担
（男女を問わずできる人が分担し、性別や年齢によって役割を固定化しない）
- 相談体制の整備、専門職と連携したメンタルケア・健康相談の実施
（個室やパーティション等を活用し、プライバシーを確保したスペースで実施）
- きめ細かな支援に活用できる避難者名簿の作成及び情報管理の徹底
（氏名、性別、年齢、支援の必要性（健康状態、保育や介護を要する状況等）、外部からの問合せに対する情報の開示・非開示の可否、等）
- 配偶者からの暴力の被害者等の避難者名簿の管理徹底
- 就寝場所や女性専用スペース等の巡回警備、暴力を許さない環境づくり
- 防犯ブザーやホイッスルの配布
- 不安や悩み、女性に対する暴力等に対する相談窓口の周知、男性相談窓口の周知

平常時にしておくべきこと

男女共同参画の視点に配慮した避難所の開設・運営の在り方について、地域防災計画や避難所運営マニュアル等に記載しておくとともに、平常時において、指定避難所とその地域の住民等による組織を作り、訓練等を通じ、災害時に避難所を円滑に開設・運営できるようにしておくことが必要です。

避難所チェックシート 内閣府「男女共同参画の視点からの防災復興取り組み指針」解説・事例集 P81 より

毛呂山町男女共同参画推進委員から

講演をお聴きして、また、避難所運営ゲームの体験を通して、実際の避難所では、行政・消防などによる「公助」よりも、地域の住民自身が主体となり協力し合う「共助」が重要であることを学びました。

災害時において、男女がともに協力して乗り越えられるよう、地域の自主防災活動への女性の参画を呼び掛けるなど、日頃から生活に密着した防災対策を進める必要があると強く感じたところです。